

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100658		
法人名	社会福祉法人 自立共生会		
事業所名	社会福祉法人 自立共生会 ひかりの里 3 階		
所在地	三重県桑名市新西方3丁目187番地		
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 14日	評価結果市町提出日	令和2年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470100658-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 10 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「お年寄りの底力を活かす」を実践し、利用者の昔取った杵柄(食材の下ごしらえ・畑仕事・着物の着方やたたみ方・抹茶のたて方・おやつ作り等)を若い職員に教えて頂いたり、日々の生活の中で役割として担って頂き、尊敬されたり感謝される存在となって頂けるよう支援しています。新型コロナウイルス感染症流行前は防犯パトロール・地域清掃への参加・小学校の運動会の応援や文化祭での模擬店出店等地域の一住民としてその人らしく生活していけるよう取り組んでいました。散髪ボランティアや夏祭りのボランティアを受け入れ認知症への理解を深めて頂く機会を提供し、併設の児童クラブの子供たちとの交流は認知症を持つお年寄りの理解を次世代へと広げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が続き、従前の介護支援ができない制約を受ける中、3ユニットが一体となって、厳しい状況を乗り切ろうとしている。老人の底力を活かす理念のもと、利用者の役割分担をして、ここでの生活が役に立っているという充実感を作っている。母体が医療系で事業所周辺は母体の医院や関連施設があり、普段の安心につながって、また状態が悪くなった場合の体制も整って、家族からの信頼もある。事業所の一階に放課後児童クラブが併設され、学校から帰ってきた子供たちの賑やかな声が聞こえ、時には利用者と一緒に遊んで触れあっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お年寄りの底力を活かす」という法人理念を共有し、利用者一人ひとりがその能力を生かした役割を持ち、生き生きと生活して頂けるような環境を作り理念の実践につなげている。	理念が示すよう、年寄りの底力を活かすのが介護の意となって、役割を持ってもらうことで生きがい、やりがいを作り出す支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域清掃や夏祭りに参加している。自治会の腕章をつけての防犯パトロールやごみ出しの際近隣の方と挨拶を交わす等日常的に交流している。又地域の小学校の運動会の応援や文化祭への模擬店出店を行っている。	コロナ禍の現在、地域とのつきあいはできていない。それまでは、防犯パトロールの実施・祭りでの交流・小学校の運動会等の応援に参加するなど、幅広い交流の場があった。現在、地域の自治会の班長会が2か月に1回継続して開催されており、参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、傾聴ボランティア・散髪ボランティア・夏祭りのボランティアの受け入れを通して認知症を持つ人の理解と支援方法を広めている。又児童クラブパンの木の子どもたちとの交流を通して次世代への理解の広がりを促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に桑名市介護高齢課、地域包括支援センター、第3者委員、自治会長等に参加して頂きサービスに関する疑問点や評価に対する取り組みの状況等についてご意見を頂きサービス向上に繋げている。	コロナ禍で本年度は開催できない。開催はできないが議事録を作成し、行政へ報告をしている。	運営推進会議に、家族・利用者の参加をお願いする。事業所の取り組みや「ヒヤリハット」「事故報告」地域との協力体制等を報告し、意見や要望を話し合っって利用者の生活がさらに充実されるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	桑名市介護支援ボランティア受け入れ施設、徘徊SOS緊急ネットワーク事業協力機関となっている。又成年後見制度利用等で介護高齢福祉課、社会福祉協議会、地域包括支援センター等とも連携している。	行政との関係は良好である。成年後見人制度の利用、生活保護の受給者の受け入れを行っている。他の市町から視察の受け入れをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の離脱防止のため玄関にセンサーチャイムや音の鳴る暖簾を設置している。やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合はご家族に十分説明し承諾を得、記録に残すようにしている。	年間の研修計画に身体拘束についての研修があり、学んでおり、現在は拘束者ゼロである。事故報告書、ヒヤリハットの書類の整備はしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、毎月ケアの話し合いをして職員の意識向上を図り日々利用者の状況把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度について研修を行い、参加できなかった職員には資料を配布しレポート提出により周知を図り活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約日時を予め決め、運営方針・重要事項について十分な時間を取って説明し、改訂の際は書面で伝えご理解頂けるよう努めている。利用者・ご家族が不安や疑問点を聞きやすい雰囲気作りを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置している。家族会総会や面会時にご意見を伺っている。ご意見・ご要望は管理者・職員で共有し改善していけるよう取り組んでいる	現在は面会を制限し、玄関先の窓越しで顔が見れる程度である。月に1回、利用者ごとに”今”の利用者の顔写真と様子を書いた「たより」を家族へ送付している。居室のカーテンをタッセルでまとめて欲しい、結露を拭いて欲しいなど要望があり改善をした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は月間報告書に改善案を記入提出している。又毎月のカンファレンスや部門ミーティングで職員からの意見や提案を聞き、運営に反映させている。	毎月職員が月間報告書を提出し、業務改善の提案をしている。フロア会議や部門ミーティングが定期的に行われ、理事長も出席し意見交換の場となっている。人事評価の個人面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の活動を「月間報告書」に記入提出してもらい努力手当や賞与に反映させている。又半年ごとの人事評価前に面談の機会を設け向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には一定期間上級者が指導を行っている。毎月法人全体の研修を行い資料とDVDの回覧もおこなっている。又働きながら介護福祉士や介護支援専門員の資格取得が出来るよう配慮している。新型コロナウイルス感染予防マニュアルを回覧し周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア学会東海ブロック大会、三重県介護支援専門員協会やみえ介護グローバル協同組合の研修・ネットワーク作りの機会を通じてサービスの質の向上に繋げる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等をご家族やご本人から教えて頂き、要望や不安に対処できるよう努めている。ご本人の気持ちをゆっくり聞く機会を持ち安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時の管理者による説明だけでなく本人と関わることの多い職員もご家族と話し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャー・医師・入居前のサービス事業者とも連携を取り本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者の状態に合わせた役割を持っていただいている。「昔取った杵柄」を生かし、畑仕事・おやつ作り・和服のたたみ方・抹茶の立て方等を若い職員に教えて頂いている。又オルガンを弾いたり・他の利用者の髪を梳いたり・食事の盛り付けや食器洗い等暮らしを共にする者同士支えあって生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には春秋のつどいや夏祭りに参加していただいていた。新型コロナウイルス感染予防の為希望される方は電話でご家族と話しして頂き、面会を希望される方にはガラス戸越しに会って頂き本人と家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス流行前にはご家族と外出・外食して頂けるよう配慮していた。又神社への初詣・コンビニでの買い物に行けるよう支援した。流行後も感染者数が落ち着いていた時期にはペランダで感染予防対策を行い面会して頂いた。	コロナ禍で面会や外出の制限があるが、利用者の数人が家族や友人と手紙や電話でやり取りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、穏やかに過ごしていただけるよう席を配慮したり職員が橋渡し役となりひとり一人が欠かせない存在と感じて頂けるよう支援に努めている。思いやりある温かい言葉がけを利用者同士でして頂ける場面もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される場合も地域包括支援センターや桑名市の担当者・入居予定の施設職員と共に地域会議を行い今後ご本人やご家族が安心して生活していけるよう支援に取り組んだ。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中で思いや希望を受け止めたり入浴時や夜間寝付かれない時など1対1でゆっくり話せる機会に個々の思いを聞き出せるよう努めている。	夜、眠れなかった時に夜勤者と話したり、風呂で職員と1対1になった時、本音を聞くこともあり、傾聴に努めている。得た情報は記録に書いて職員間で共有している。日頃の仕草や表情、言葉から読み取ることも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やケアマネジャーから生活歴等お聞きしている。ご本人との普段の会話の中でも嗜好・特技・馴染みの物・昔の出来事の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に健康状態・ご本人の言葉や活動の様子を記録し申し送りを行い全職員で情報共有して心身の状態を把握するように努めている。往診時には療養シートを用いて伝達漏れや指示もれが無いようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケアカンファレンスに介護計画見直し月の利用者のご家族に参加頂いたり電話で要望を伺っている。必要に応じ主治医・看護師。薬剤師・歯科衛生士等専門職と連携を取り現状に即した介護計画の作成に努めている。	目標を6か月にして、モニタリングはその時に実施している。ケアカンファレンスは看護師の参加がある。必要に応じて医師、本部の管理栄養士とも連携を取り計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務日誌に気付いたことや日々の様子を記録し情報共有して実践に活かしている。介護計画の見直しがあった場合は全職員が確認し介護計画に沿ったケアが出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内保育の幼児との防犯パトロールや夏季のプール遊びの見守りを行っている。新型コロナウイルス感染症流行前は児童クラブの子供たちと夏祭り・敬老の日・餅つき大会等で交流するほか一緒に野菜の収穫を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス流行前は小学校の運動会や文化祭への参加・傾聴ボランティア・夏祭りのボランティアとの交流を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(整形外科)・消化器内科・耳鼻科の訪問診療がある。又歯科・眼科・皮膚科等は可能な限り本人のかかりつけ医を受診できるよう支援している。初診時には主治医の診療情報提供書を持参できるよう手配している。行くことが困難な方には往診を依頼している。	入居後は、全員が母体のクリニックの理事長が主治医となって、月2回の訪問診療がある。クリニックには耳鼻科や消化器内科があり訪問診療を実施している。毎朝、母体の看護師がバイタルチェックを行っている。主治医は近くに居住し、いつでも相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関とは随時連絡を取り合い、担当看護師に健康状態の変化等報告相談し、適切な治療・看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリー・薬剤情報等必要な情報を医療機関に伝え、連携を図っている。又本人やご家族の希望に添えるよう医療機関の地域連携室の担当者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と毎年5月に終末期に向けたアンケートに記入して頂いている。看取りが必要な状態に近づいた場合は看護師と施設職員立ち合いで主治医からご家族に説明が行われご家族ご本人の意向に沿って納得のいく最後を迎えられるようにしている。	入居時に看取り指針に基づき家族と同意を交わしている。状態が悪化したら、医師から家族へ話し、今後の相談をし、改めて同意書を交わしている。看取りはこれまでも何件かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループ内研修で消防職員による心肺蘇生・AED使用方法・応急処置・急変時の対応を学んでいる。又事故報告書・ヒヤリハットで事故の原因や対策を分析し全フロアに配布し、情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練を定期的に行っている。消防署の指導により消化器の使用訓練もおこなっている。自治会の「災害時住民台帳」に登録している	本年度は6月、9月に防災訓練を実施した。各階、決めた場所までの避難訓練である。防災グッズや頭巾なども用意している。外部評価で指摘されたチャート式のマニュアルを使って行った。備蓄は水、缶詰、マスク、防護服などがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重しご本人の意思を確認し支援している。ケアカンファレンスでは認知症について研修を行い経験の浅い職員にはアドバイスをを行っている。	研修を計画的に実施し、プライバシー保護について職員に周知している。居室に入る時は、ノック・声かけをする。羞恥心の伴うトイレ誘導時の声かけなどは十分に注意をしている。同性で介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の普段の言動に留意し、何気ない日常会話から思いや希望を引き出せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パトロール・行事・外出等にご本人が意思決定して参加できるよう支援している。利用者一人ひとりの生活リズムを大切に希望に沿った過ごし方ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度散髪ボランティアに来て頂き新型コロナウイルス感染予防対策をしベランダでご本人の希望に沿って散髪をしてもらっている。ひな祭り・夏祭りには好みの着物を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、盛り付け・片付けを職員と一緒にやっている。誕生会には希望のおやつを用意し、行事には献立を利用者と一緒に考え作っている。嗜好調査も行っている。	朝食はホームで作り、昼夜は母体の病院が作ったものが配達されている。管理栄養士による嗜好調査も実施している。利用者が出来る下ごしらえや盛り付けなどで利用者の出番もある。おやつにホットプレートを使って焼きそば作りなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・看護師の指導により摂食・嚥下機能に応じた形態の食事を提供している。食事量・水分量を記録し1日の摂取量を把握できるようにしており必要時は看護師に報告している。疑似ボカリの提供やゼリー・クラッシュゼリー等摂取しやすい形状の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立度に応じた口腔ケアを行っている。介助の必要な方には職員による仕上げ磨きやくるりなブラシによるケアを行っている。夜間義歯を預かり洗浄液にて消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所が分かるよう張り紙をしている。一人ひとりのブリストルスケールと排泄時間を記録し、個々の排泄パターンを把握している。適時の誘導を行いトイレでの排泄の支援をしている。	布パンツ、リハビリパンツやパットなど使って様々であるがトイレでの排泄支援をしている。オムツの利用者はいない。夜間にポータブルトイレを活用している方が数名ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物を小まめに提供し水分摂取に努め、米に押し麦を混ぜて炊いている。毎日適度な運動が出来るよう支援し起床時に冷たい牛乳や水を提供し、適時にトイレ誘導し自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に留意し、脱衣場の温度・好みの湯温・入浴のタイミングに配慮しゆっくり入浴を楽しんで頂いている。	入浴は週2回、概ね午後の時間帯に実施している。1階と3階は家庭用の個浴で、2階に車いす対応ができる機械浴になっている。利用者は職員と1対1になって、ゆっくりと話を聞いてもらいながらくつろげる時間である。ゆず湯、菖蒲湯も時節に応じてしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や体調に合わせ昼間居室で休んで頂いたり、午後居間でリラックスして頂けるよう音楽を流したりしている。午前中に外気浴にお誘いし夜間照明や室温に留意し自然な入眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の居宅療養管理指導を受け主治医・薬剤師の指示のもと服薬支援を行っている。副作用・用法・用量の理解に努め症状に変化のある場合は速やかに医師に報告し対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族から生活歴・趣味等教えて頂き、また日ごろのコミュニケーションの中でご本人の得意なことを教えて頂き、食事の準備・後片づけ・洗濯干し・野菜の水やりや収穫等役割を持って生き生きと生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	防犯パトロール・コンビニへの買い物・小学校の運動会の応援・文化祭での模擬店出店等外出できるよう支援している。又ご家族との外出外食も楽しんで頂けるようにしている。	コロナ禍の中で外出がままならないが、1階は中庭で、2階3階は広いベランダがあるので、外気に触れている。中庭に家庭菜園の畑、ベランダにはプランターで野菜が作っており、水やりや収穫は利用者の出番となっている。間もなくさつま芋掘りが待っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーやコンビニへ出かけご自分で品選びをして買い物が出来るよう又可能な方には支払いもして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に沿いご家族と電話で話したり手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテレビの音量や室温・エアコンの風の当たり具合等調節し、快適に過ごして頂けるようにしている。又季節の部屋飾りを一緒に作成し、花を飾る等季節を感じられるよう工夫している。手すり等の消毒をし新型コロナ対策を行っている。	1階は中庭から緑豊かな自然が見えて、2階3階のベランダから外の風景が見渡せる。コロナ禍の中で、外部者は中に入れないが、換気・消毒・清掃に万全を期している。放課後児童クラブの子供たちの賑やかな声が利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチを置き一人になりたいときに利用できるようにしている。又気の合うもの同士で外気浴しながらおしゃべりを楽しむ場にもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのえを貼ったり、お孫様ひ孫様の写真を飾り又千羽鶴をつるす等居心地の良く過ごせる工夫をしている。	それぞれの居室に、床から若干上げたクローゼットが設備しており、衣類や寝具などの持ち物が整理されている。家族との写真などが飾られて、思い思いの自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置・家具の固定等安全面に配慮している。外階段は両手で手すりを握れるよう両側に設置し、段の端がわかりやすいよう蛍光の滑り止めテープを張っている。		